

「県民の願い 実現の県政へ」

2月、NHK「プラタモリ」で2週連続神戸が取り上げられました。「神戸はなぜ1300年も良港なのか？」—良港のカギは急峻な六甲山と水にあった、など兵庫県の潜在的な魅力を紐解くものでした。

ひるがえり今年度の県予算は、「行革」で老人医療費助成などを廃止する一方、外から企業を呼び込むための補助金に何十億も注ぎ込むもので、魅力が生かされていません。日本共産党県議団は、県民のくらし優先の予算を求めて質問、予算組み替え提案を行いました。県民の願い実現の県政へ。引き続きがんばります。



討論に立つ、きただ県議(3月24日)

3月議会 本会議質問

核兵器も 原発も ない 未来を

唯一の被爆国なのに核兵器禁止条約交渉のための国連決議に反対した政府に対し、「非核神戸方式」が存在する県として、「非核平和都市宣言」を行うよう要求。
原発問題では、原発事故の収束のめどさえ立たない状況下で、再稼働を容認する姿勢に立ち続ける知事に対し、再稼働中止を求めるべきだと質問しました。

3月議会 主な請願の内容	共産	自民	公明	連合	維新
国に核兵器禁止条約の交渉会議に参加を求める	○	×	×	×	×
オスプレイ配備、米軍戦闘機の低空飛行訓練の中止を求める	○	×	×	×	×
老人医療費助成廃止撤回を求める請願	○	×	×	×	×
最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める	○	×	×	×	×
借上げ復興公営住宅の希望者全員の継続入居を求める	○	×	×	×	×

○…採択を主張 ×…不採択を主張

住吉山手、鴨子ヶ原、渦森台、住吉台住民が主に利用する、19・39・38系統がそれぞれ往復で、4便・4便・14便減らされました(4/1)。
市バスが唯一の公共交通機関であるこの地域にとって、減便は通勤・通学はもちろん、免許返上した高齢者の方の足をも奪うものです。
市は、「黒字になればまた便数を戻すことも」と言いますが、減便して不便になればさらにバス利用者は減ります。
きただ県議は、多くの人が利用できる便数の確保と始発・終発の延長等求めています。

市バス19・39・38系統の減便は撤回を



住民の皆さんとともに市に減便撤回を要請(3月16日。後列右2人目から西市議、きただ県議、松本市議)

通院・入院とも中学3年 まで無料の35市町

新温泉町、香美町、養父市、朝来市、相生市、たつの市、太子町、赤穂市、宍粟市、上郡町、佐用町、姫路市、神河町、市川町、福崎町、丹波市、篠山市、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町、宝塚市、三田市、猪名川町、明石市、高砂市、稲美町、播磨町、西宮市、芦屋市、淡路市、洲本市、南あわじ市

赤字は、所得制限なし(16市町)。小野市、香美町は高校3年まで無料

	窓口自己負担	所得制限
神戸市	通院 0歳~3歳未満:無料 3歳~中3:1日400円上限 (1医療機関・薬局あたり、月2回まで)	(現在) 0歳~就学前:なし 小学生~中3:あり ↓ (2017年7月から) 0歳~中3まで:なし
	入院 0歳~中3まで:無料	

子ども医療費助成 県内35市町が中3まで無料に 神戸市—所得制限なし—

今年度、県内41市町の内35市町が中3まで無料に前進します。(神戸市は7月から所得制限をなくし、全ての世帯が対象になります)。県制度を拡充させ、神戸市を含め、全市町で所得制限なし・自己負担無料制度の実現へ、引き続きがんばります。

イノシシは山へ

イノシシの出没、生活被害、人身事故が絶えません。イノシシを介した感染症も懸念されています。

きただ県議はこれまでもイノシシ被害対策を求めてきましたが、餌付け禁止の徹底、パトロール、防護柵の設置など改めて抜本的な対策を県と市に求めています。



毎日のように落ちていているイノシシのフン。出没状況を住民の方から聞き取り(3月16日。住吉山手 commons にて)

認定子ども園「わんずまぎー保育園」

認定取り消し問題 県の責任は重大



3月21日 緊急申し入れ

姫路市の認定子ども園が、法令違反を含む劣悪な保育を続けていた問題。認定した県の責任は重大です。安易な認定で保育の受け皿を増やすのではなく、質の確保が必要です。

日本共産党県議団は、発覚直後に県に申し入れ、▽子どもを守る緊急の対応▽認定等について第三者を含めた検証▽監査の強化等の再発防止策—などを求めました。